



## 業況DIは9.6ポイントの上昇、商業・サービス業が大きく改善

### ～令和5年4－6月期中小企業景気動向調査～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業2,000社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和5年4－6月期の調査結果と併せてご報告いたします。

#### ◇ 中小企業景気動向調査要旨

1. 調査結果（総合）特徴 ～ 総合の業況DIは上昇。前期3ヵ月後見込より大幅上昇 ～  
総合の業況DIは、前期比9.6ポイント上昇の▲24.6となりました。前期の3ヵ月後見込（▲36.8）より12.2ポイントの大幅な上昇となりました。  
また、今後については3ヵ月後が現在比2.8ポイント低下の▲27.4（前期の半年後見込▲33.7）、半年後が同0.9ポイント低下の▲25.5ポイントの見込みとなり、前期の見込よりは上昇しているものの、物価高騰の影響など、先行きが見通せない状態が続いています。
2. 業種別特徴 ～ 業況・売上・採算DI、商業・サービス業が大幅上昇 ～  
製造業の業況DIは前期比2.0ポイント上昇の▲28.7で、前期見込（▲31.2）を上回りました。中分類で見ると、一般機械（同5.8ポイント低下の▲31.4）と電気機械（同4.8ポイント低下の▲28.6）は低下した一方で、輸送用機械（同11.8ポイント上昇の▲25.9）は上昇しました。  
建設業の業況DIは同0.4ポイント低下の▲6.6となりましたが、前期見込（▲21.4）より大きく上回りました。  
商業・サービス業の業況DIは同16.5ポイント上昇の▲26.0で、前期見込（▲43.8）と比べ大幅な上昇となりました。内訳を見ると、卸売業が同22.3ポイント上昇の▲23.3、小売業が同9.8ポイント上昇の▲35.9、飲食店が同30.9ポイント上昇の▲19.1、サービス業が同16.1ポイント上昇の▲15.2となり、上昇幅は業種によってばらつきがあるものの、いずれも上昇しました。  
また、3ヵ月後は製造業が現在比0.8ポイント低下の▲29.5（前期の半年後見込▲27.0）、建設業が同4.6ポイント低下の▲11.2（同▲22.7）、商業・サービス業が同3.7ポイント低下の▲29.7（同▲40.3）、半年後は製造業が同6.1ポイント上昇の▲22.6、建設業が同9.8ポイント低下の▲16.4、商業・サービス業が同3.4ポイント低下の▲29.4となるなど、3ヶ月後は全ての業種が現在比で低下、半年後は製造業が上昇、建設業と商業・サービス業が低下を見込んでいます。
3. 規模別\*特徴 ～ 業況・売上・採算DI、小規模企業で上昇傾向 ～  
中規模企業の業況DIは前期比10.5ポイント上昇の▲18.8、小規模企業のDIは同8.6ポイント上昇の▲31.4となりました。売上DIは中規模企業が同9.7ポイント上昇の▲5.2、小規模企業が同18.8ポイント上昇の▲12.9、採算DIは中規模企業が同9.4ポイント上昇の▲25.2、小規模企業が同18.0ポイント上昇の▲24.3となりました。小規模企業においても、業況・売上・採算DIのいずれも大きく上昇しました。

#### 4. 地区別特徴 ～ 業況DI、8地区全てが前期より上昇 ～

地区別の業況DIでは8地区全てが前期より上昇しました。特に変化の大きかったのは横須賀（前期比19.4ポイント上昇）、藤沢（同19.7ポイント上昇）、相模原（同18.4ポイント上昇）の3地区でした。前期の3ヵ月後見込と比較しても全ての地区が上回っています。

一方、3ヵ月後は現在比で川崎地区を除く7地区が現在より低下すると見込んでいますが、前期の半年後見込との比較では横浜地区を除く7地区で上回っています。

半年後では現在比で川崎、平塚、厚木の3地区で上昇、その他の5地区で低下を見込んでいます。

地区	今期業況DI（前期比／前期3ヵ月後見込）	増減	同3ヵ月後見込（同半年後見込）	増減	同半年後見込
横浜	▲25.8（8.1ポイント上昇／▲36.0）	↓	▲29.0（▲27.3）	↓	▲28.7
川崎	▲29.3（0.8ポイント上昇／▲37.8）	↑	▲27.0（▲33.3）	↑	▲22.1
横須賀	▲20.2（19.4ポイント上昇／▲33.7）	↓	▲24.4（▲34.8）	↓	▲24.4
平塚	▲36.4（3.0ポイント上昇／▲42.7）	↓	▲41.1（▲48.5）	↑	▲34.0
藤沢	▲9.6（19.7ポイント上昇／▲35.6）	↓	▲21.2（▲33.3）	↓	▲19.4
相模原	▲24.2（18.4ポイント上昇／▲44.1）	↓	▲25.8（▲39.1）	↓	▲25.8
厚木	▲22.1（2.9ポイント上昇／▲29.0）	↓	▲22.5（▲29.3）	↑	▲17.6
足柄上・西湘	▲25.5（9.5ポイント上昇／▲36.5）	↓	▲26.3（▲33.0）	↓	▲28.3

※ 増減は今期業況DI（斜体）と同3ヵ月後見込、同半年後見込との比較。

#### 5. その他（経営状況、前期経営実績、主なコメント）

##### ～ 経営状況では「売上」が上昇。サービス業が大幅に上昇し、「採算」も上昇 ～

経営状況では、「売上」が総合で前期比13.8ポイント上昇の▲8.7となりました。業種別では、製造業が前期比9.9ポイント上昇の▲15.2となったほか、商業・サービス業は同21.6ポイントと大幅に上昇し、▲3.0となりました。一方、建設業は同9.6ポイント低下の▲15.0となりました。

また、「採算」は、総合で前期比13.3ポイント上昇の▲24.8となり、特に商業・サービス業では、卸売業が同16.5ポイント上昇の▲24.5、小売業が同13.2ポイント上昇の▲28.8、飲食店が同28.1ポイント上昇の▲16.2、サービス業が同16.3ポイント上昇の▲16.8となり、いずれも大幅な上昇となりました。

コメントでは、「足下は厳しい状況が続いておりますが、一部の客先で持ち直しの動きがあります。」「仕入れ価格は上がっていますが、ある程度価格転嫁できる状態にあります。」などの声が上がっていました。一方で、止まらない物価高騰や人手不足など、今後の見通しについては不安視する声も多く寄せられました。

#### 【調査要領】

調査時期：令和5年5月 調査対象：県内中小企業2,000社 回答数：1,001社

\* 中規模／小規模

製造業・建設業：300人以下／20人以下、商業・サービス業：100人（小売業は50人）以下／5人以下

▼本件に関するお問い合わせ先  
 （公財）神奈川県産業振興センター（KIP）  
 （Kanagawa Industrial Promotion Center）  
 総務部企画広報課 木村  
 TEL 045-633-5101 FAX 045-633-5018  
 URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail: [kikaku@kipc.or.jp](mailto:kikaku@kipc.or.jp)

# 令和5年4-6月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは9.6ポイントの上昇

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和5年4-6月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

## 1. 調査要領

- ・調査時期：令和5年5月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：1,001社（50.1%） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	349	63.5%
建設業	250	121	48.4%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	531	44.3%
合計	2,000	1,001	50.1%

## 2. 調査結果

### （1）総合

	令和4年		令和5年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲40.4	▲33.6	▲34.2	▲24.6	▲27.4	▲25.5
売上DI	▲27.7	▲13.3	▲22.5	▲8.7	—	—
採算DI	▲41.8	▲36.5	▲38.1	▲24.8	—	—

総合の業況DIは、前期比9.6ポイント上昇の▲24.6となった。

経営状況では、売上DIは前期比13.8ポイント上昇の▲8.7、また、採算DIは同13.3ポイント上昇の▲24.8となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比2.8ポイント低下の▲27.4、半年後は同0.9ポイント低下の▲25.5を見込んでいる。

### （2）業種別特徴

#### <製造業>

	令和4年		令和5年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲29.8	▲27.6	▲30.7	▲28.7	▲29.5	▲22.6
売上DI	▲19.8	▲10.6	▲25.1	▲15.2	—	—
採算DI	▲39.3	▲38.7	▲39.5	▲28.1	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比2.0ポイント上昇の▲28.7となった。

経営状況では、売上DIは、前期比9.9ポイント上昇の▲15.2、採算DIは同11.4ポイント上昇の▲28.1となった。

「コロナ以前の状態に少しずつ回復傾向にあります。もう少し安定して受注したいです。」

「値上げが増収の要因だが、原料価格の上昇が止まらなく、利益率は下がっている。」「足下は厳しい状況が続いておりますが、一部の客先で持ち直しの動きがあります。全体に波及して引き合い、受注が活発になる事を期待しています。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比0.8ポイント低下の▲29.5、半年後は同6.1ポイント上昇の▲22.6を見込んでおり、「仕入れ価格は上がっていますが、ある程度価格転嫁できる状態にあります。今後の見通しは不透明です。柔軟に対応できる組織作りを行っています。」「国内市場は、今後も縮小すると考える。海外への販売が、今後の売上増を達成するために必要と考える。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和4年		令和5年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
一般機械	▲27.6	▲20.0	▲25.6	▲31.4	▲32.5	▲31.3
電気機械	▲19.5	▲21.5	▲23.8	▲28.6	▲36.1	▲26.8
輸送用機械	▲30.9	▲38.6	▲37.7	▲25.9	▲22.6	▲13.2
その他	▲37.4	▲32.0	▲35.8	▲28.0	▲26.0	▲18.0

中分類で見ると、一般機械は前期比5.8ポイント低下の▲31.4、電気機械は同4.8ポイント低下の▲28.6、輸送用機械は同11.8ポイント上昇の▲25.9となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比1.1ポイント低下の▲32.5、電気機械が同7.5ポイント低下の▲36.1、輸送用機械は同3.3ポイント上昇の▲22.6、半年後は一般機械が同0.1ポイント上昇の▲31.3、電気機械が同1.8ポイント上昇の▲26.8、輸送用機械は同12.7ポイント上昇の▲13.2を見込んでいる。

#### < 建設業 >

	令和4年		令和5年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲21.3	▲19.7	▲6.2	▲6.6	▲11.2	▲16.4
売上DI	▲18.0	▲14.8	▲5.4	▲15.0	—	—
採算DI	▲35.2	▲31.1	▲25.9	▲21.8	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比0.4ポイント低下の▲6.6となった。

経営状況では、売上DIは前期比9.6ポイント低下の▲15.0、採算DIは同4.1ポイント上昇の▲21.8となった。

「新築物件等の数が減っている。改修工事ばかりになっている。」「コロナの終息により、官公庁の発注が少しずつ増えてきている。」「予定した公共事業が受注出来ず、売上が減っている。民間工事の引き合いはあるが、金額が合わない。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比4.6ポイント低下の▲11.2、半年後は同9.8ポイント低下の▲16.4を見込んでおり、「取引先の事業縮小に伴い、売上高が減りました。新しい取引先をどんどん増やしていきたいと思っています。」「人手不足が今後経営に及ぼす影響が心配である。」といった声も聞かれた。

#### < 商業・サービス業 >

	令和4年		令和5年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲51.2	▲40.8	▲42.5	▲26.0	▲29.7	▲29.4
売上DI	▲34.7	▲14.7	▲24.6	▲3.0	—	—
採算DI	▲44.8	▲36.3	▲39.8	▲23.3	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比16.5ポイント上昇の▲26.0となった。

経営状況では、売上DIは前期比21.6ポイント上昇の▲3.0、採算DIは同16.5ポイント上昇の▲23.3となった。「コロナも落ち着き、客足が少し戻ってきている気がする。電気代、ガス代、仕入価格の値上がりがかかるのしかかっている。」「気候も良くなり、外出の機会が増え、何とか売り上げを確保しています。」「顧客の業況が良くなっている。引き合いは増えている。原価は上昇しているが、売価は横這いで、見積もり段階で厳しい。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比3.7ポイント低下の▲29.7、半年後は同3.4ポイント低下の▲29.4を見込んでいる。「コロナ禍終息後、どう変わっていくのか。また、仕入価格の上昇がいつまで続くのか、見極めが難しい。」「原材料が上がっているが、価格を上げ、客数も増えており、利益率は改善していく。」「先行き不透明感はありますが、伸びてきている業種もあるように思います。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和4年		令和5年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
卸売業	▲46.7	▲31.7	▲45.6	▲23.3	▲29.0	▲34.3
小売業	▲60.9	▲47.4	▲45.7	▲35.9	▲42.9	▲39.2
飲食店	▲63.5	▲53.3	▲50.0	▲19.1	▲9.0	▲4.5
サービス業	▲31.6	▲30.3	▲31.3	▲15.2	▲18.9	▲22.0

業種別では、卸売業は前期比22.3ポイント上昇の▲23.3、小売業は同9.8ポイント上昇の▲35.9、飲食店は同30.9ポイント上昇の▲19.1、サービス業は同16.1ポイント上昇の▲15.2となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比5.7ポイント低下の▲29.0、小売業は同7.0ポイント低下の▲42.9、飲食店は同10.1ポイント上昇の▲9.0、サービス業は同3.7ポイント低下の▲18.9、半年後では卸売業が同11.0ポイント低下の▲34.3、小売業は同3.3ポイント低下の▲39.2、飲食店は同14.6ポイント上昇の▲4.5、サービス業は同6.8ポイント低下の▲22.0を見込んでいる。

### (3) 規模別特徴

		令和4年		令和5年			
		7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
中規模	業況DI	▲33.4	▲27.6	▲29.3	▲18.8	▲21.9	▲18.7
	売上DI	▲21.1	▲3.7	▲14.9	▲5.2	—	—
	採算DI	▲39.8	▲33.6	▲34.6	▲25.2	—	—
小規模	業況DI	▲48.1	▲40.4	▲40.0	▲31.4	▲34.0	▲33.6
	売上DI	▲35.1	▲24.1	▲31.7	▲12.9	—	—
	採算DI	▲44.0	▲39.7	▲42.3	▲24.3	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比10.5ポイント上昇の▲18.8、小規模企業は同8.6ポイント上昇の▲31.4となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比9.7ポイント上昇の▲5.2、採算DIが同9.4ポイント上昇の▲25.2、小規模企業は売上DIが同18.8ポイント上昇の▲12.9、採算DIが同18.0ポイント上昇の▲24.3となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比3.1ポイント低下の▲21.9、半年後が同0.1ポイント上昇の▲18.7、小規模企業は3か月後が同2.6ポイント低下の▲34.0、半年後が同2.2ポイント低下の▲33.6を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況DI）

	令和4年		令和5年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
横浜	▲45.2	▲39.0	▲33.9	▲25.8	▲29.0	▲28.7
川崎	▲30.1	▲33.1	▲30.1	▲29.3	▲27.0	▲22.1
横須賀	▲39.2	▲36.2	▲39.6	▲20.2	▲24.4	▲24.4
平塚	▲48.6	▲33.9	▲39.4	▲36.4	▲41.1	▲34.0
藤沢	▲22.5	▲20.0	▲29.3	▲9.6	▲21.2	▲19.4
相模原	▲43.5	▲26.6	▲42.6	▲24.2	▲25.8	▲25.8
厚木	▲38.4	▲33.3	▲25.0	▲22.1	▲22.5	▲17.6
足柄上・西湘	▲49.0	▲38.2	▲35.0	▲25.5	▲26.3	▲28.3

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比8.1ポイント上昇の▲25.8）、川崎地区（同0.8ポイント上昇の▲29.3）、横須賀地区（同19.4ポイント上昇の▲20.2）、平塚地区（同3.0ポイント上昇の▲36.4）、藤沢地区（同19.7ポイント上昇の▲9.6）、相模原地区（同18.4ポイント上昇の▲24.2）、厚木地区（同2.9ポイント上昇の▲22.1）、足柄上・西湘地区（同9.5ポイント上昇の▲25.5）となり8地区全てで上昇となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比3.2ポイント低下の▲29.0）、川崎地区（同2.3ポイント上昇の▲27.0）、横須賀地区（同4.2ポイント低下の▲24.4）、平塚地区（同4.7ポイント低下の▲41.1）、藤沢地区（同11.6ポイント低下の▲21.2）、相模原地区（同1.6ポイント低下の▲25.8）、厚木地区（同0.4ポイント低下の▲22.5）、足柄上・西湘地区（同0.8ポイント低下の▲26.3）となり1地区で上昇し、7地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比2.9ポイント低下の▲28.7）、川崎地区（同7.2ポイント上昇の▲22.1）、横須賀地区（同4.2ポイント低下の▲24.4）、平塚地区（同2.4ポイント上昇の▲34.0）、藤沢地区（同9.8ポイント低下の▲19.4）、相模原地区（同1.6ポイント低下の▲25.8）、厚木地区（同4.5ポイント上昇の▲17.6）、足柄上・西湘地区（同2.8ポイント低下の▲28.3）となり3地区で上昇し、5地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部 企画広報課 木村

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

# 景気動向調査 (令和5年4月～6月期)

## 業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業				総合	
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		小計
回収数		349	121	103	226	68	134	531	1,001
業況判断	現在の業況	▲28.7	▲6.6	▲23.3	▲35.9	▲19.1	▲15.2	▲26.0	▲24.6
	3ヶ月後の業況	▲29.5	▲11.2	▲29.0	▲42.9	▲9.0	▲18.9	▲29.7	▲27.4
	半年後の業況	▲22.6	▲16.4	▲34.3	▲39.2	▲4.5	▲22.0	▲29.4	▲25.5
経営状況	売上	▲15.2	▲15.0	▲1.0	▲15.9	38.2	▲3.8	▲3.0	▲8.7
	採算	▲28.1	▲21.8	▲24.5	▲28.8	▲16.2	▲16.8	▲23.3	▲24.8
	引き合い/客数	▲16.8	▲11.0	▲12.9	▲30.8	20.6	▲7.6	▲14.9	▲15.1
	単価	14.4	2.6	5.9	▲19.6	7.4	0.8	▲6.1	2.1
	仕入価格	▲76.4	▲69.0	▲83.2	▲75.4	▲83.8	▲61.9	▲74.8	▲74.6
	資金繰り	▲23.8	▲7.7	▲19.6	▲30.5	▲20.6	▲13.1	▲22.8	▲21.4
	残業	▲22.1	▲17.2	▲17.8	▲14.4	▲7.5	▲10.9	▲13.3	▲16.9
	設備稼働	▲21.3	▲9.1	—	—	—	—	—	▲18.3
前期経営実績	売上水準	▲17.2	▲1.7	▲12.6	▲32.7	▲7.4	▲17.3	▲21.7	▲17.7
	利益水準	▲3.5	16.7	3.9	▲22.4	▲13.2	▲5.3	▲11.8	▲5.4
	在庫	10.8	▲7.1	13.3	4.4	2.9	▲13.2	1.8	3.9
	投資	▲6.4	▲4.4	▲13.1	▲14.0	▲16.7	▲1.6	▲11.2	▲8.7
	雇用状況	▲17.6	▲47.9	▲15.3	▲21.3	▲44.1	▲33.6	▲26.3	▲25.8

## 参考<前回調査> 景気動向調査 (令和5年1月～3月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業				総合	
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		小計
回収数		335	113	105	225	61	131	522	970
業況判断	現在の業況	▲30.7	▲6.2	▲45.6	▲45.7	▲50.0	▲31.3	▲42.5	▲34.2
	3ヶ月後の業況	▲31.2	▲21.4	▲48.5	▲53.0	▲37.9	▲27.5	▲43.8	▲36.8
	半年後の業況	▲27.0	▲22.7	▲36.1	▲49.8	▲29.3	▲32.3	▲40.3	▲33.7
経営状況	売上	▲25.1	▲5.4	▲29.5	▲30.7	▲8.2	▲17.7	▲24.6	▲22.5
	採算	▲39.5	▲25.9	▲41.0	▲42.0	▲44.3	▲33.1	▲39.8	▲38.1
	引き合い/客数	▲18.6	▲14.3	▲27.6	▲36.2	▲23.0	▲17.7	▲28.3	▲23.3
	単価	8.8	2.7	1.0	▲14.0	▲1.6	▲7.8	▲7.9	▲0.9
	仕入価格	▲84.7	▲76.6	▲80.0	▲78.6	▲96.7	▲65.6	▲77.8	▲80.1
	資金繰り	▲29.6	▲12.5	▲30.5	▲40.4	▲47.5	▲24.4	▲35.2	▲30.6
	残業	▲14.7	▲12.6	▲23.3	▲17.9	▲18.0	▲14.7	▲18.2	▲16.3
	設備稼働	▲16.2	▲6.6	—	—	—	—	—	▲13.9
前期経営実績	売上水準	▲11.6	▲13.3	▲24.8	▲29.3	▲32.8	▲18.5	▲26.1	▲19.6
	利益水準	▲3.0	0.9	▲11.5	▲26.2	▲34.4	▲11.5	▲20.5	▲12.0
	在庫	14.1	▲4.0	11.8	5.4	0.0	▲15.3	1.2	5.2
	投資	▲4.9	▲3.8	▲14.9	▲18.6	▲20.0	▲5.8	▲15.0	▲10.2
	雇用状況	▲22.5	▲50.0	▲8.7	▲13.2	▲33.9	▲30.8	▲19.1	▲23.9

## 規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		188	161	58	63	296	235	542	459
業況判断	現在の業況	▲22.3	▲36.0	1.7	▲14.3	▲20.5	▲32.9	▲18.8	▲31.4
	3ヶ月後の業況	▲23.2	▲36.9	▲1.8	▲20.0	▲24.9	▲35.7	▲21.9	▲34.0
	半年後の業況	▲14.6	▲32.3	▲10.7	▲21.7	▲22.9	▲37.6	▲18.7	▲33.6
経営状況	売上	▲12.8	▲18.0	▲15.5	▲14.5	1.7	▲9.0	▲5.2	▲12.9
	採算	▲28.7	▲27.3	▲24.1	▲19.7	▲23.2	▲23.5	▲25.2	▲24.3
	引き合い/客数	▲9.6	▲25.2	▲6.9	▲15.0	▲7.5	▲24.0	▲8.2	▲23.2
	単価	17.6	10.6	12.1	▲6.8	4.1	▲19.0	9.7	▲6.9
	仕入価格	▲73.9	▲79.2	▲65.5	▲72.4	▲70.8	▲79.7	▲71.3	▲78.6
	資金繰り	▲21.5	▲26.6	▲3.5	▲11.7	▲20.1	▲26.2	▲18.8	▲24.4
	残業	▲20.7	▲23.8	▲12.1	▲22.4	▲12.1	▲14.8	▲15.1	▲19.0
	設備稼働	▲19.7	▲23.1	▲6.9	▲11.5	—	—	▲16.7	▲20.3
前期経営実績	売上水準	▲14.9	▲19.9	3.6	▲6.3	▲14.2	▲31.1	▲12.6	▲23.7
	利益水準	0.0	▲7.5	36.2	▲1.6	▲3.1	▲22.8	2.2	▲14.6
	在庫	15.7	5.1	▲8.8	▲5.5	4.5	▲1.8	7.0	0.2
	投資	▲2.7	▲10.8	▲5.2	▲3.6	▲6.7	▲16.7	▲5.1	▲12.9
	雇用状況	▲19.3	▲15.7	▲55.2	▲41.0	▲32.2	▲18.6	▲30.2	▲20.6

## 地区別DI表

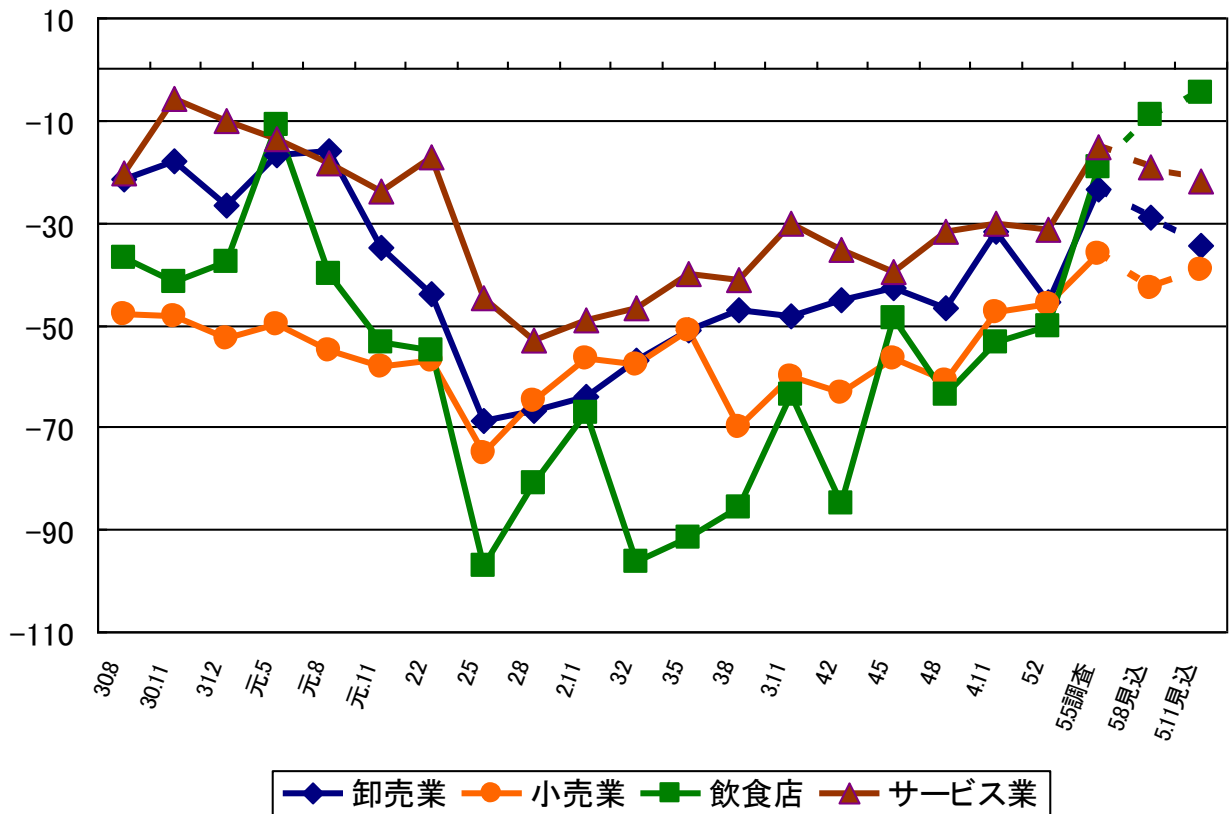
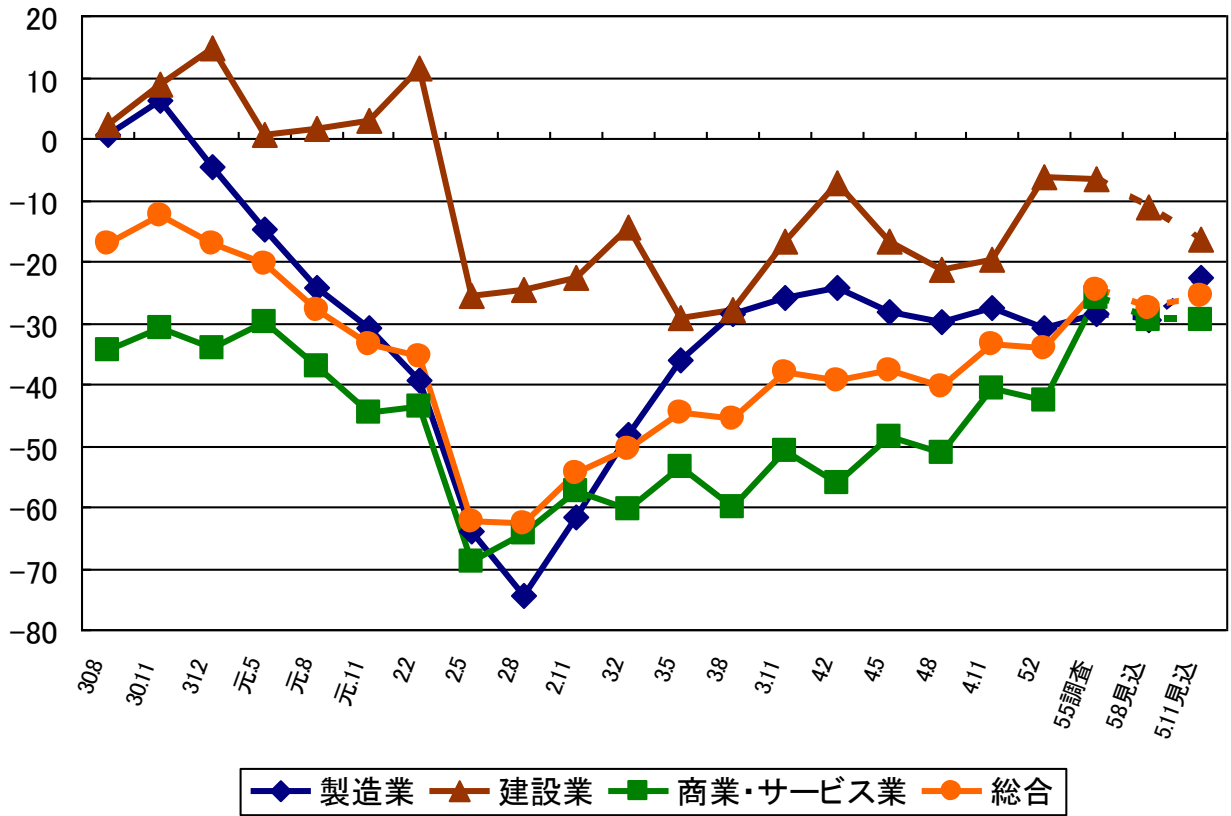
		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		269	140	90	99	104	92	105	102	1,001
業況判断	現在の業況	▲25.8	▲29.3	▲20.2	▲36.4	▲9.6	▲24.2	▲22.1	▲25.5	▲24.6
	3ヶ月後の業況	▲29.0	▲27.0	▲24.4	▲41.1	▲21.2	▲25.8	▲22.5	▲26.3	▲27.4
	半年後の業況	▲28.7	▲22.1	▲24.4	▲34.0	▲19.4	▲25.8	▲17.6	▲28.3	▲25.5
経営状況	売上	▲9.4	▲14.3	▲9.0	0.0	1.9	▲10.9	▲21.0	▲3.9	▲8.7
	採算	▲30.8	▲28.8	▲21.6	▲11.1	▲14.4	▲30.4	▲29.5	▲20.6	▲24.8
	引き合い/客数	▲19.2	▲13.0	▲13.6	▲10.2	▲13.6	▲17.6	▲12.4	▲14.9	▲15.1
	単価	▲1.9	3.6	6.8	▲2.0	11.7	1.1	3.8	0.0	2.1
	仕入価格	▲71.3	▲79.6	▲64.4	▲77.6	▲82.5	▲75.8	▲71.2	▲77.2	▲74.6
	資金繰り	▲26.5	▲20.6	▲17.0	▲23.5	▲3.8	▲22.0	▲23.8	▲25.7	▲21.4
	残業	▲17.9	▲18.8	▲8.0	▲12.4	▲14.4	▲22.2	▲23.1	▲15.0	▲16.9
	設備稼働	▲19.7	▲13.1	▲7.9	▲15.9	▲14.9	▲30.2	▲21.4	▲19.0	▲18.3
前期経営実績	売上水準	▲19.0	▲22.9	▲27.0	▲27.6	▲2.9	▲16.3	▲9.5	▲14.7	▲17.7
	利益水準	▲7.8	▲3.6	▲4.5	▲18.2	3.9	▲4.4	4.8	▲11.0	▲5.4
	在庫	2.4	3.0	1.2	4.1	0.0	11.0	7.8	5.0	3.9
	投資	▲12.4	▲3.6	▲3.4	▲6.3	▲7.8	▲7.8	▲6.8	▲16.8	▲8.7
	雇用状況	▲26.6	▲28.7	▲27.6	▲30.6	▲27.2	▲25.3	▲18.4	▲20.6	▲25.8

## 製造業中分類別DI表

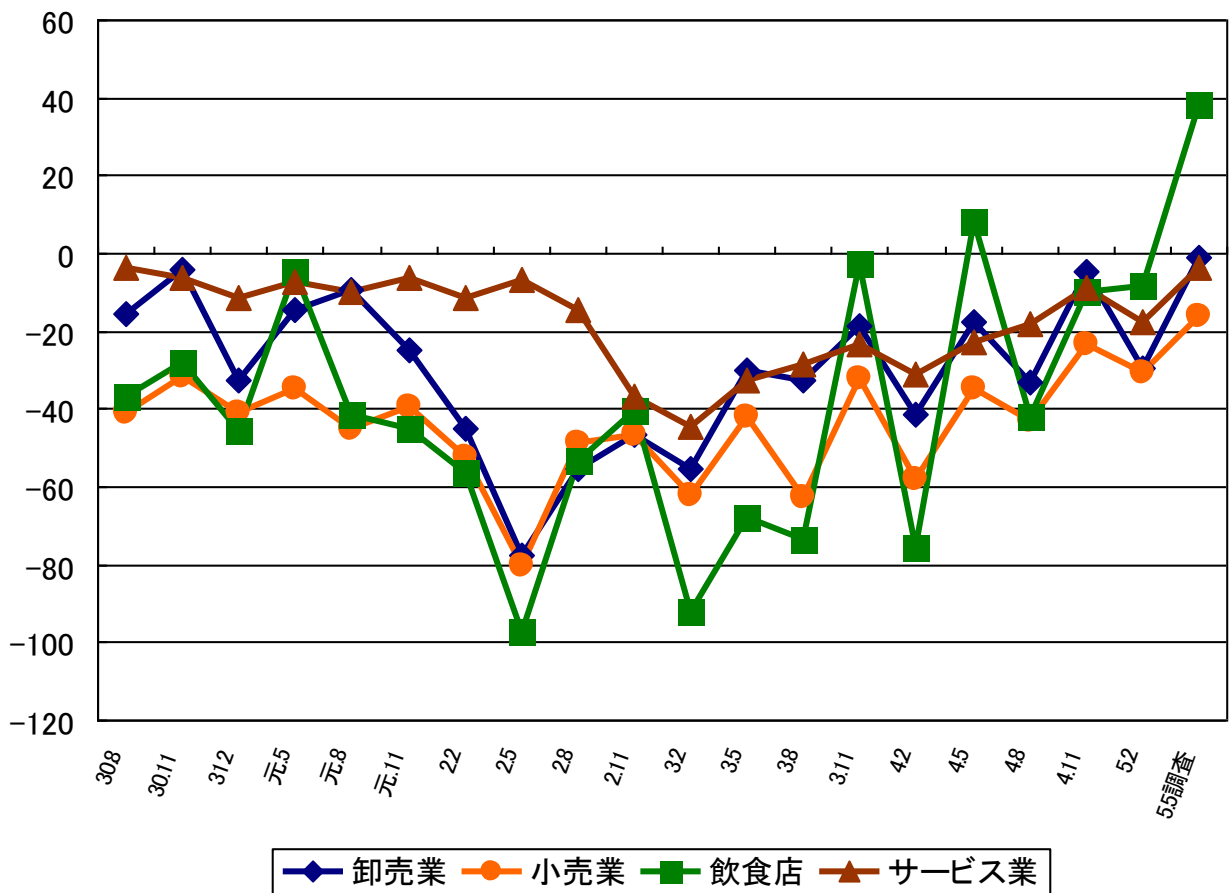
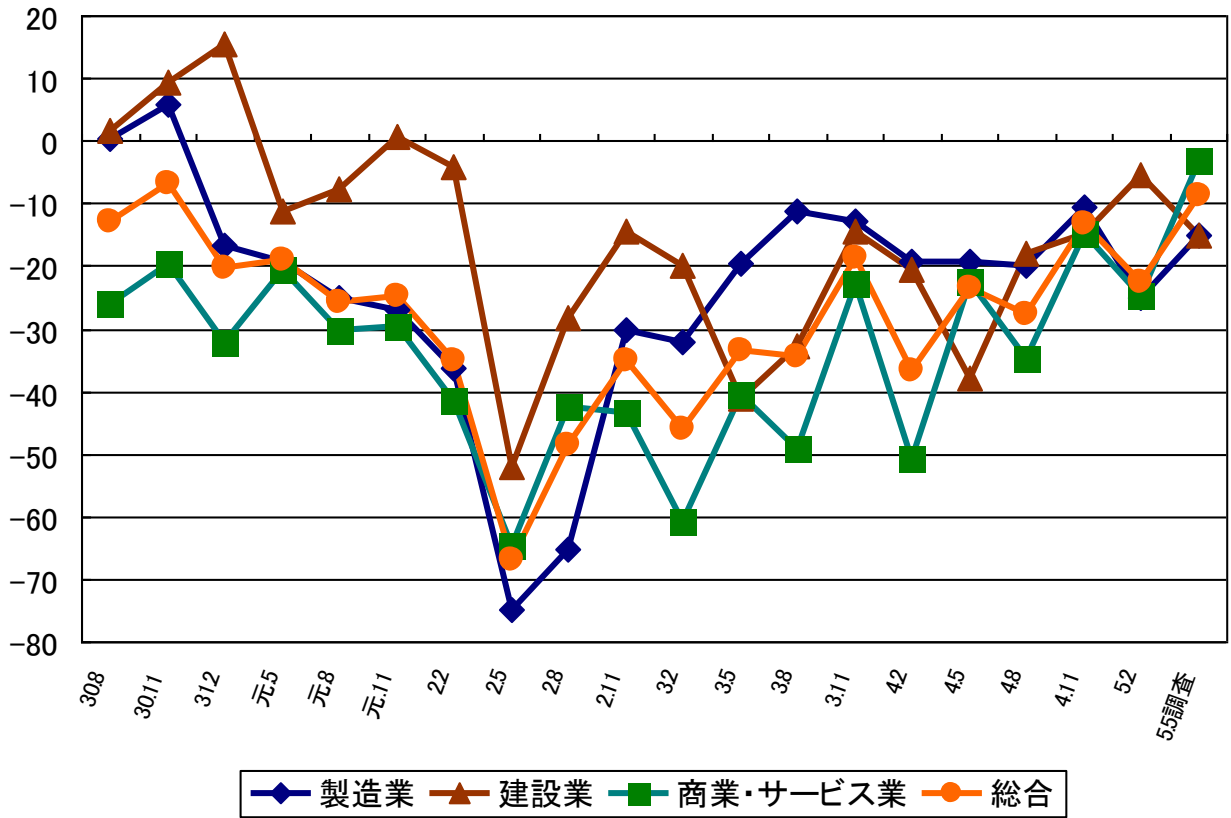
		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		86	84	54	125	349
業況判断	現在の業況	▲31.4	▲28.6	▲25.9	▲28.0	▲28.7
	3ヶ月後の業況	▲32.5	▲36.1	▲22.6	▲26.0	▲29.5
	半年後の業況	▲31.3	▲26.8	▲13.2	▲18.0	▲22.6
経営状況	売上	▲25.6	▲16.7	▲18.5	▲5.6	▲15.2
	採算	▲31.4	▲27.4	▲27.8	▲26.4	▲28.1
	引き合い/客数	▲14.0	▲26.2	▲13.0	▲13.9	▲16.8
	単価	5.8	19.0	9.4	19.2	14.4
	仕入価格	▲76.7	▲80.7	▲69.8	▲76.0	▲76.4
	資金繰り	▲23.5	▲18.1	▲28.3	▲26.0	▲23.8
	残業	▲22.1	▲26.2	▲17.0	▲21.6	▲22.1
	設備稼働	▲26.7	▲21.4	▲20.4	▲17.7	▲21.3
前期経営実績	売上水準	▲19.8	▲7.1	▲22.2	▲20.0	▲17.2
	利益水準	▲4.7	9.5	▲3.8	▲11.3	▲3.5
	在庫	9.6	16.9	5.7	9.8	10.8
	投資	▲5.9	▲3.6	▲14.8	▲4.9	▲6.4
	雇用状況	▲29.4	▲19.3	▲14.8	▲9.7	▲17.6



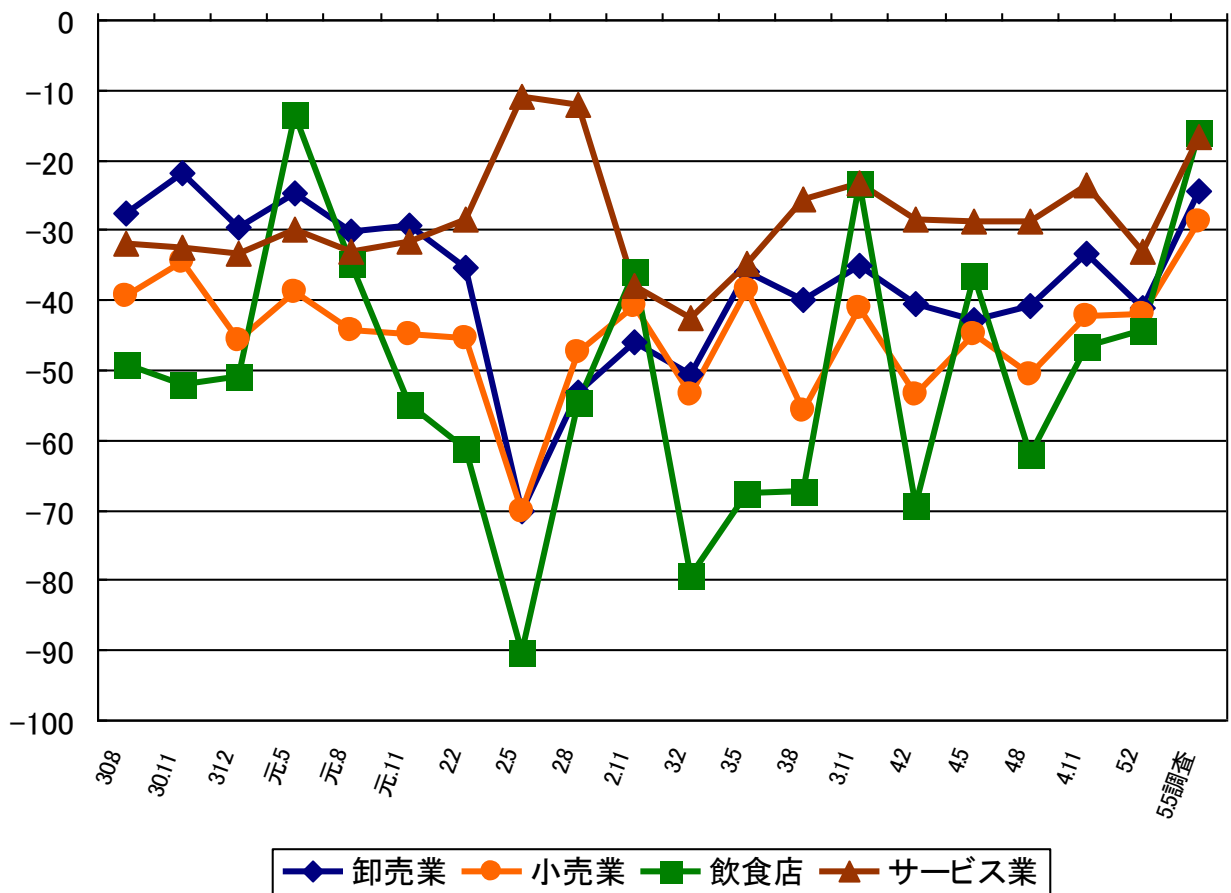
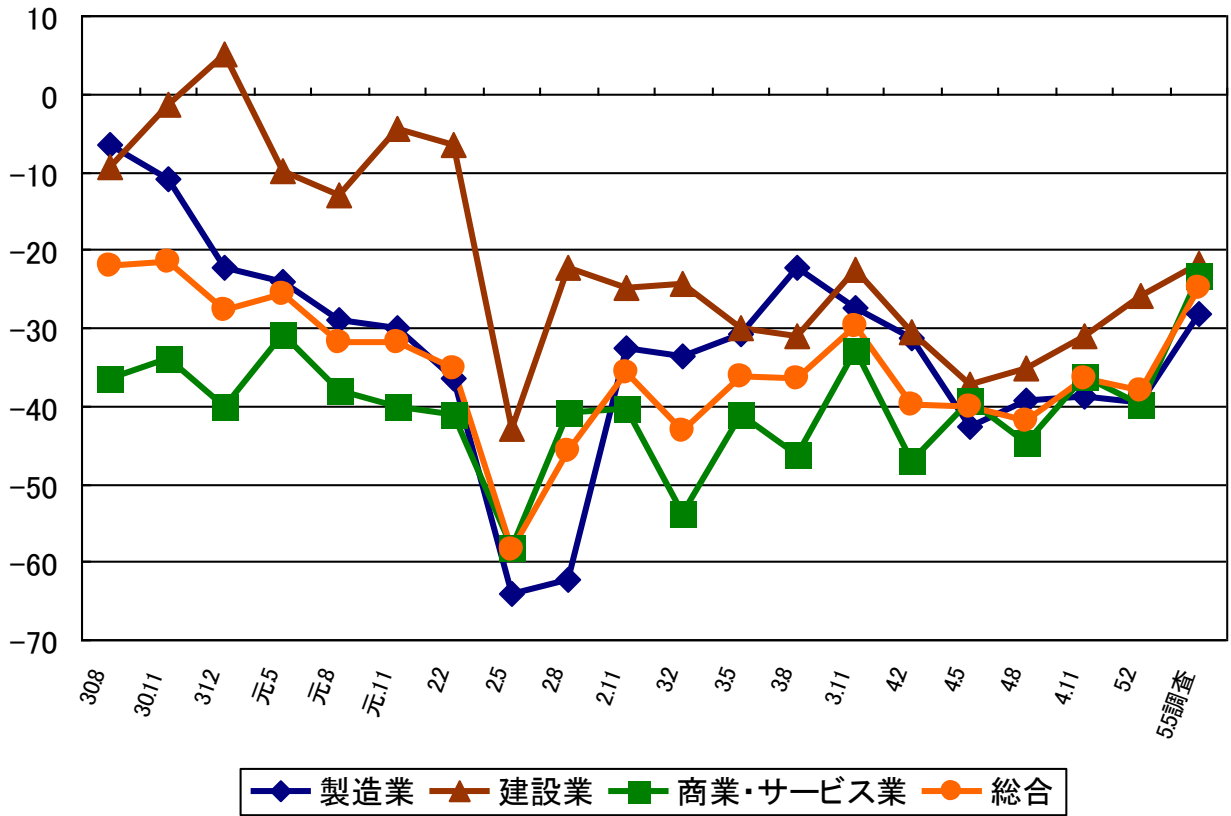
# 業況DIの推移



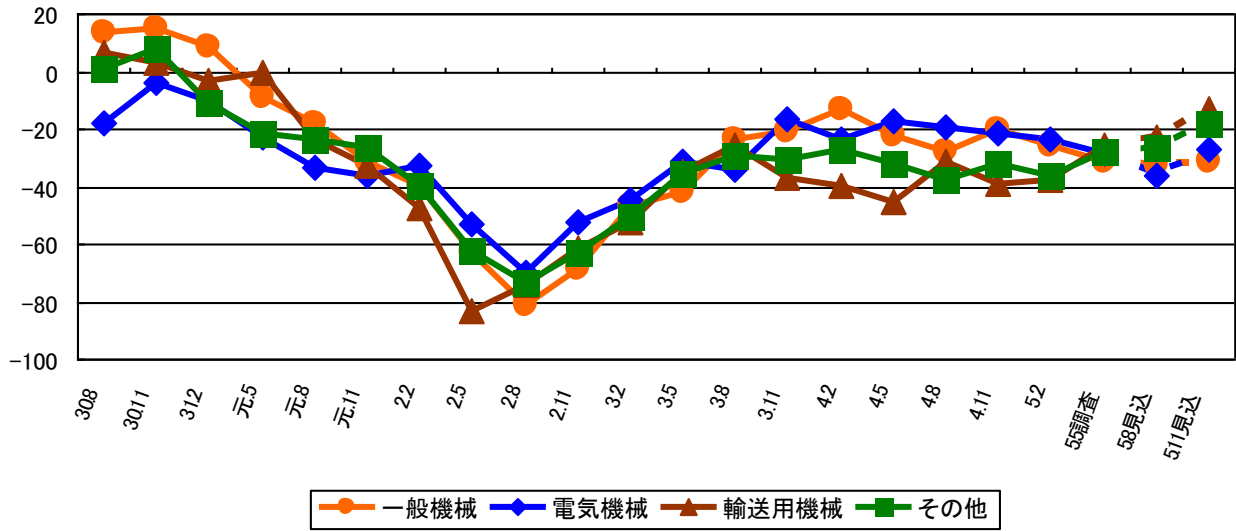
# 売上DIの推移



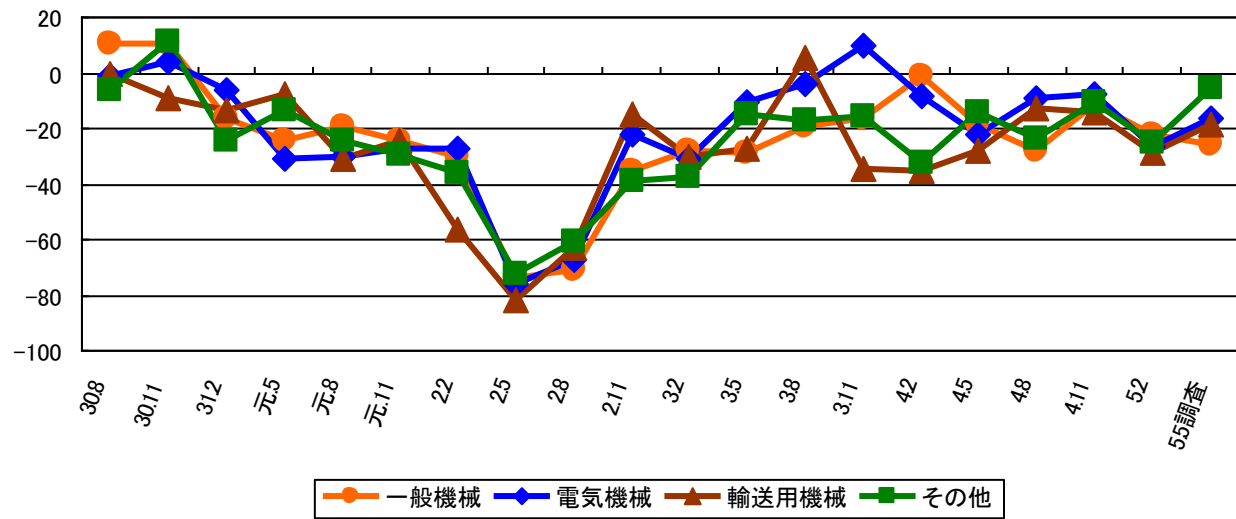
# 採算DIの推移



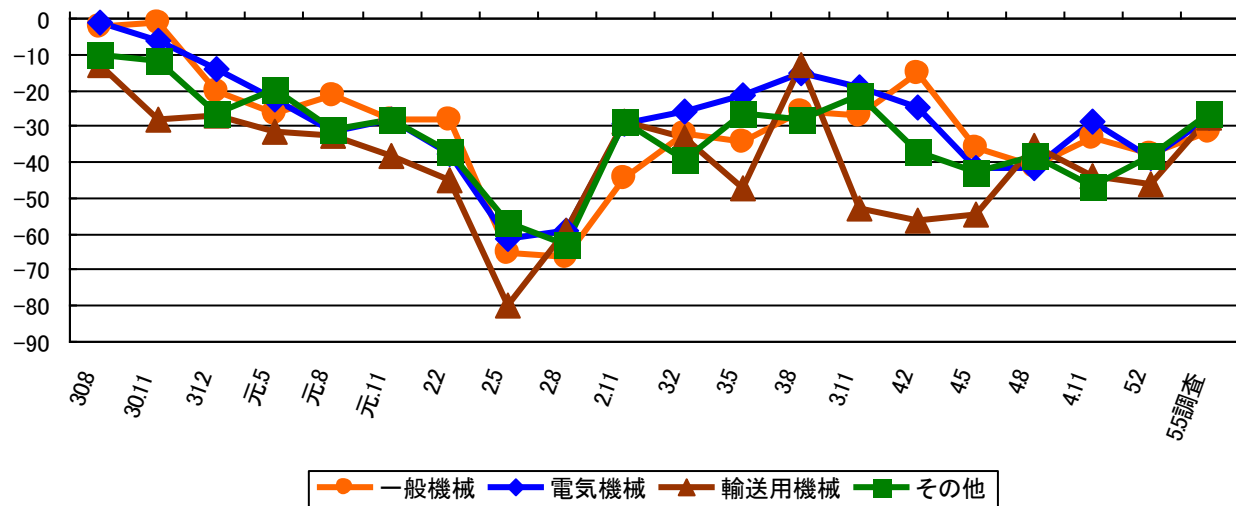
### 製造業(中分類)業況DIの推移



### 製造業(中分類)売上DIの推移



### 製造業(中分類)採算DIの推移



調査回答企業からのコメント(一部)

<製造業>

「原材料高騰により材料費が上がったが、うちの売値を上げてもらえない。」
「依然として、部材(半導体)の入手難が解消されず、受注に対し生産が出来ない。」
「今後、大幅な給与引き上げや、働き方改革が、経営に及ぼす影響が心配。」
「足下は厳しい状況が続いておりますが、一部の客先で持ち直しの動きがあります。全体に波及して引き合い、受注が活発になる事を期待しています。」
「値上げが増収の要因だが、原料価格の上昇が止まらなく、利益率は下がっている。」
「仕入れ価格は上がっていますが、ある程度価格転嫁できる状態にあります。今後の見通しは不透明です。柔軟に対応できる組織作りを行っています。」
「少しずつは良くなっている。電気代や材料代の値上がり、これから影響してくると思う。」
「コロナ以前の状態に少しずつ回復傾向にあります。もう少し安定して受注したいです。」
「国内市場は、今後も縮小すると考える。海外への販売が、今後の売上増を達成するために必要と考える。」
「コスト上昇のスピードが速く、値上げをしても利益率が良くならない。材料価格は、比較的単価に転嫁しやすいが、人件費などは難しい。」
「ホテルに納める省エネ電子機器メーカーです。円安で外国人観光客が増える傾向にあり、観光業から徐々に良い方向に向かうと思って期待しています。」
「売上は増えているが、電気代等の高騰により、粗利は増えていない。」
「メインユーザーの在庫調整により一時的に受注量が減少しています。なんとか利益は確保できていますが、材料費等の原価上昇も続いており、油断できない状況が続いています。」
「円安などによるコスト増加によって今年3月から価格の改定を実施した。その反応がまだわからない段階ではあるものの、4月は軟調な出足になっている。」

<建設業>

「人手不足が今後経営に及ぼす影響が心配である。」
「人員不足で募集しても集まらない。」
「新築物件等の数が減っている。改修工事ばかりになっている。」
「今後の見通しは厳しいです。」
「コロナの終息により、官公庁の発注が少しずつ増えてきている。」
「人手不足で受注出来ず。」
「予定した公共事業が受注出来ず、売上が減っている。民間工事の引き合いはあるが、金額が合わない。」
「資機材の不足と、価格の高騰。」
「建設資材の値上がりにより、元請けの発注単価を見直してもらうように交渉している。」
「仕事はあるが、人員不足により手が出せない状況。」
「現場はいくつか受注しているが、工期が長い為、売上は減っている。」
「今は大規模物件で忙しいが、今後が不安。案件の全体数も減っており。公共事業案件の入札も、今までとは異なり、多くの業者が入札参加している状況である。」
「取引先の事業縮小に伴い、売上高が減りました。新しい取引先をどんどん増やしていきたいと思っています。」
「ベースアップにより、人件費の高騰が懸念される。」

<卸売業>

「コロナ禍終息後、どう変わっていくのか。また、仕入価格の上昇がいつまで続くのか、見極めが難しい。」
「値上げ交渉も中々難しいですが、少しずつ改善されていますので、今後は少し利益も上向くと期待しています。」
「自動車関連の取引が多い為に、相変わらず半導体不足からの車の生産が低調の為に売上が振るわない。」
「資金繰りが厳しく、採算の取れる品目を選んで仕入れるため、欠品が続く商品が増えました。コロナが終息に向かい、人が動くこれからは向けて売物が揃わず、苦しい状況が続いています。」
「コロナの影響のみではなく、経営の二極化が鮮明になり、システム化され、それによる個々の働く意欲が今後の課題です。言うなれば、中小企業にとってチャンスだと思います。」
「取扱商品値上げによる売上増が見えるが、賃上げ不足による消費マインド低下が怖い。」
「ホームセンター、ドラッグストア、コンビニエンスストアなどの流通市場の変化で、流通業者に厳しい時代が続くと思います。」
「毎年3月～5月までは、閑散期ですが、6月7月と受注が入ってきますので、前年度より多い受注が入ると思います。新規取引先が少しずつ増えてきますので、今後も新規が増える様、努力して参ります。」
「世界的なインフレにより、建設資材が値上がりしています。」
「商品が全て値上がりして売れない。経費全て値上がりの為、利益出ず。」
「仕入価格、光熱費、人件費が上がっている為、売上高が増えても、利益は変わらない。」

調査回答企業からのコメント(一部)

<小売業>

「物価上昇、下請不足による影響を感じています。」
「コロナ禍より、お客様の動きが悪いまま戻らない感じ。」
「コロナが落ち着いてきていることもあり、葬儀式の単価がやや回復してきています。物販については、なかなかPayの恩恵大です。」
「インバウンドが、コロナ禍以前よりも多く入ってきて、桜の時期はすごかった。夏はどうなるのか多少不安はありますが（暑さもあるので）、期待はしています。」
「LPガス、灯油などが売り上げの大半をしめる為、元売りの輸入価格、為替などが、利益に大きく関わってきます。その為、毎月発表される輸入価格に対応できるように、日々、経費削減等を行っております。」
「商店街客層の高齢化が進み、若い層が他の商業施設に集中している。何とか若者を商店街に呼び戻したい。」
「仕入価格の上昇。諸経費の増加、人件費の上昇等が売価に反映できない。人は大幅に出ているが、衣料品の購入には結び付かない。」
「気候も良くなり、外出の機会が増え、何とか売り上げを確保しています。」
「コロナ補助金の需要が落ち着き、また買い替えや、新規購買も低調であり、売上増の期待が持てない。」
「コロナ後の販売額は、少し良くなると思う。」
「リユース業は、3月～5月が繁忙期なので、売上が良かった。」
「5月連休も人は多かったが、買物はあまりしない。連休の売上は、前年より減!!。土日は人も多いが、平日の方が売上は良い。」
「先行き不透明感はありますが、伸びてきている業種もあるように思います。」
「仕入価格高騰分を、売価に転嫁するのをためらっている。」
「商品の値上げや、掛率の高騰により、利益が減って来ています。」
「仕入価格の高騰、コロナの影響、町の民宿、旅館等の閉店、客の量販店志向等で、修理、工事は良いが、商品の販売は減少の為、売上が悪い。」

<飲食店>

「コロナも落ち着き、客足が少し戻ってきている気がする。電気代、ガス代、仕入価格の値上がりがかかっている。」
「お客様の戻りが好調で、客数は良くなってきそうです。」
「売上は上がっているが、光熱費がかさみ、仕入も上がり、利益を取りにくくなっている。」
「人手不足から店休日など導入予定。」
「肉の仕入れが毎月のように上がり、酒類も少しずつ上がって来ており、しかもカードによる利用客も増え、資金繰りはこれからは厳しくなると思う。」
「原材料が上がっているが、価格を上げ、客数も増えており、利益率は改善していく。」
「全国旅行割キャンペーンの縮小により、売上確保が落ちました。今後も見通しは、不透明です。」
「企業、団体ターゲットの店のため相変わらず厳しい。規制が解除され、今後期待はしている。」
「現況は良くなっているが、コロナ禍の負債が大きすぎて、全く楽にならない。」
「3月より、お客様が戻ってきていますが、食材、梱包、光熱費、全てが値上がり。せっかく売上が増えても、利益に繋がらない状況です。」

<サービス業>

「整備士不足は、以前から変わらないが、何とか維持できている。」
「夏のエアコン修理に期待します。」
「消費者物価の高騰や、燃料費の値上がりなどにより、来店頻度が低くなっている。コロナの終息により、レンタカーの利用は上向いている。カーメーカーの生産も少しずつ改善に向かっている。」
「売上は業種柄、安定推移しているが、労務費、材料費上昇分が、契約金に転嫁できない顧客が多数で、収益性は落ちている。」
「物価高の折り、顧客の財布の紐が固くなっています。」
「とにかく採用が厳しい。」
「正社員を目指す人材が1人増えたことで、入る仕事が増やせて、売上が伸びている。詰まるところ人材次第。でも入金が遅いので、運転資金不足。」
「今年度の市等の事業で、ようやく物価上昇、人件費上昇分の一部を契約金額にのせられるようになったものの、発注者が民間の場合はまだまだ厳しい。」
「顧客の業況が良くなっている。引き合いは増えている。原価は上昇しているが、売価は横這いで、見積もり段階で厳しい。」
「コロナがひと段落ついて、やや良くなったものの、外注先の値上げが痛い。特に印刷。」